

## 各コースの特色を活かし相互理解・相互学習を目指したグループワークの試み (平成 25 年度)

学校教育講座・山田 誠

### 1. 授業の概要

#### (1) 科目の位置づけと受講者

本授業は，生涯学習群の総合人間形成課程及び芸術文化課程における課程共通必修科目であり，学芸員資格取得に必要な「博物館に関する科目」のひとつでもある。主な対象は2回生である。今年度の受講者数は，法文学部からの受講者3名を含む92名であった。

#### (2) 授業の目的

本授業の目的は，生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し，生涯学習に関する制度・行政・施策，家庭教育・学校教育・社会教育等との関連，専門的職員の役割，学習活動への支援等についての基礎的な知識を習得することである

#### (3) 授業の方法・形態と今年度の取り組み

通常，基本的に講義形式が中心である。しかし，今年度は以下のような理由から，講義と並行して進行させるかたちで，グループワークによるプロジェクトを取り入れた。

上記のとおり課程共通必修科目とはいえ，本授業がなぜ必修であるのか納得して講義に臨む受講者は少ないのではないかと思われる。そもそも「生涯学習」という言葉自体になじみがない者，自分との，あるいは自分の所属する課程・コースとの関わりを見出しにくい者も多いことであろう。しかも，受講者の所属は，6つの異なる領域のコースに渡っている。また，授業者は，教員組織上，受講者の属する課程の教員ではなく，開講まで面識もない。こうした条件の下で，授業内容に対する受講者の関心を高め，各自の専門領域と生涯学習との関連性の理解そして授業への主体的な取り組みを促進するにはどうすればよいか――。これは従来からの課題であり，授業者なりに講義の様々な点に改善を試みてきたが，なお解決にはほど遠い。

一方，本授業は，同じ生涯学習群に所属する受講者が課程やコースを越えてともに集い，学ぶ貴重な機会であるにもかかわらず，これまで課程・コースの違いを活かした交流

をあまり重視してこなかったという反省がある。受講者が各課程・コースのアイデンティティを意識化しつつ，相互に理解を深め，学び合うことに何かしら貢献できないものか。

そこで今年度は，受講者が所属課程・コースの特色や DP を意識し，また各コースの学習内容を活かして生涯学習の実態を捉え，課題を見出し，その解決方策を探るためにグループでの研究作業を実施するとともに，その成果を全体で共有することを目指して，プロジェクト学習的なグループワークの導入を試みることにした。

#### (4) グループワークの概要

第1回の授業で，趣旨説明とグループ編成を実施。グループはコース単位を基本とし，人数の多いコースは2つに分けた。1グループの人数は9名～11名で，9グループができた。「プロジェクト009」と命名。グループワークにとっては1グループの人数が多すぎるように思われたが，グループ数をこれ以上増やすと授業者1名だけではサポートが困難になるため，やむなくこうした編成となった。

テーマ設定は，授業者からも案を示唆したり，グループの案に問題があれば修正を求めたりしたが，基本的にはグループ主体で決定。各グループのテーマは以下の通りである。

001 (国際理解教育前半)「グローバル化と生涯学習」，002 (国際理解教育後半)「成人期の留学」，003 (生活環境前半)「環境教育について考える～なぜ今環境教育なのか～」，004 (生活環境後半)「子育てと親育ち」，005 (情報教育)「デジタルデバイド」，006 (人間社会デザイン前半)「職業人の学びの実態について」，007 (人間社会デザイン後半)「高齢者の生涯学習」，008 (音楽文化)「音楽を通してみる生涯学習」，009 (造形芸術)「現代を生きる人々と美術」

各回の授業において，グループワークに関する伝達・確認やアドバイスのための時間もかなり必要となる。本授業の目的・目標の達成には，講義の時間も確保する必要がある，

グループ活動は原則的に授業時間外に行うこととした。各班、第6回の授業をめぐり「研究計画書」(様式を配布)を作成し、教室に掲示して相互に参照した。第12回から第14回までの授業時に、各回3グループずつ成果発表を実施(発表22分、質疑3分)。どのグループもプレゼンテーションソフトを活用した発表形態を選択したが、印刷資料も配布した。発表後、各班、活動の振り返りを行い、その結果を成果のまとめレポート(各人の分担箇所を表示)に添えて報告してもらった。

授業者は、修学支援システムやメールを使用して主に各班のリーダーと連絡を取り、計画段階から発表までの各班の作業について、可能な限り進捗状況の把握と支援に努めた。

## 2. アンケート結果

第15回(まとめと試験)の授業時に、授業評価アンケートを実施した。アンケートは、4段階評価形式の質問が9項目と自由記述形式の質問が2項目である。回収数は86。

グループワークにかかわる内容を中心に、結果を以下に示す。

【あなたの態度】あなたは、この授業に積極的に取り組みましたか。

4. そう思う: 8名(9.3%)
3. まあそう思う: 48名(55.8%)
2. あまりそう思わない: 23名(26.7%)
1. そう思わない: 7名(8.1%)

【発表】あなたは、自分の課題について、しっかり調べ、まとめ、発表することができましたか。

4. そう思う: 29名(33.7%)
3. まあそう思う: 40名(46.5%)
2. あまりそう思わない: 17名(19.8%)
1. そう思わない: 0名(-)

【グループワーク】あなたは、グループの仲間と協力し、役割を果たすことができましたか。

4. そう思う: 31名(36.0%)
3. まあそう思う: 39名(45.3%)
2. あまりそう思わない: 15名(17.4%)
1. そう思わない: 1名(1.2%)

上記の結果より、授業全般についての積極的取り組みに関しては、肯定的な評価(「そう思う」「まあそう思う」)が7割を下回ったが、グループワークへの取り組みに直接かかわる2つの項目については、いずれも肯定的評価が8割に達している。

【自由記述】から

(学んだこと、考えが培われたこと)

- ・生涯を通じて学ぶ重要性はこれから先もっと増

してゆくだろう。しかし人々が生涯学習に対してあまりに無知であるが故に、それが学習者の阻害要因となっているのではないかと…。だから、幼い頃から、「生涯を通して学びは行われる」という考え方を教える必要があると、この授業を通して考えた。

- ・そもそも生涯学習とは何かを改めて認識することができた。自らが生涯学習群というものに属しているのに知らなかったこと考えたことがなかったことがたくさんあった。009を通して、自らの生涯学習についても考えることができた。生涯学習に終着点はないんだなあ…。生涯学習活動を支援する働き、改善策などまだまだ考えを深める必要があると感じた。

- ・「学び」が多世代にわたって行われていること。しかしまだ問題はあり、私たちもその問題を解決しなければならぬこと。

- ・「生涯学習」というテーマを、グループ発表を含めて、様々な視点からとらえることができました。また、このテーマ自体も、人々が生涯を通じて考え、付き合っていくべき課題であると感じました。

- ・なんでこの授業が必修なのかわかりませんでした。授業を受け終わった今、この授業が私たちにとって関連深いということがわかりました。

(良かった点・改善を要する点)

- ・グループ学習を通して一つのテーマに向かって皆で意見を出し合い考えることができたこと。そのために毎週1~2時間皆が都合をつけて集まったこと。

- ・私は班活動を取り入れてくださったのが良かった。班で学ぶうちに、新しい発見や、他の人の意見に同意すること、とにかく学べる大きかった。

- ・グループ発表をして、他の班の意見を聞いたこと。
- ・班での学習は時間が合わず、メンバー全員が集まるのが難しかったので、班活動のみに使う時間を設けてほしいです。

- ・グループ活動での班の人数が多く感じた。連絡や発表の割り振りなど苦労する点が多く感じられた。

- ・生涯学習は学校教育と違って実践に生かす、というのが難しい。また私たち受講生は生涯学習を享受する立場でもあるし、教育学部生ということで生涯学習を提供する立場にもなり得るだろう。その立場によって捉え方は異なると思うので、学習が難しかった。

## 3. 総括

発表等、各班の成果には、多少ばらつきも見受けられたが、予想以上に充実した内容の班が多かった。アンケート結果を見ると、課題の指摘もあるが、グループワーク導入の試みは、ある程度ねらいを達成できたように思われる。だが支援に多大の時間が必要とされ、大人数のクラスでの実施は難しさも感じた。